

# ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2025年2月10日(月)～16日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに目を向け、主をみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

2月10日(月)

今日の聖書日課：レビ 4:22～35

民衆の一人が、主がしてはならないと命じたことの一つでも行って、気づかずに罪に陥ってしまっただが、後になって責めを覚える場合、または、自分が陥っていた罪が知らされた場合には、その人が陥っていた罪のために、ささげ物として傷のない雌やぎを連れて来る。

レビ 4:27～28

罪のきよめのささげ物。その罪とは、祭司の罪であり、会衆すべての罪であり、族長の罪であり、そして民衆の一人の罪。どの罪も、その人だけではなく、イスラエル全体を主から引き離してしまうもの。祭司の罪だけではありません。民全体の、族長の罪だけではなく、たった一人の罪もまた、民と神の関係を壊していくもの。だから、そのための動物のいけにえもまた、同じように血が流され、焼かれたのです。

イエスさまの十字架の血は私、一人の罪の赦しのために流されました。そしてその赦しは、教会のいのちを救うのです。

2月11日(火) 本日は「建国記念の日」。私たち、キリスト教会では「信教の自由を覚える日」として過ごします。今日は昭和聖書教会で、そのことを覚える集会を持ちます。

今日の聖書日課：レビ 5:1～18

もしその人が、山鳩二羽あるいは家鳩のひな二羽さえも手に入れることができないのなら、自分の罪のために、ささげ物として、十分の一エパの小麦を罪のきよめのささげ物として持って行く。その人はその上に油を加えたり、その上に乳香を添えたりしてはならない。これは罪のきよめのささげ物であるから。

レビ 5:11

罪のきよめのささげ物。民衆の一人の罪に対しても求められました。上記の聖句は、その人の経済状況がどうであれ、その罪のきよめのささげ物が必要であると教えます。羊を買う余裕がない者は、山鳩あるいは家鳩のひな、それさえも買う余裕がないならば、小麦粉を用意し、献げるのです。

イエス・キリストの十字架の血に値段はありません。それは神が支払ってくださった代価でした。だから私たちは、小さな罪でさえも、それがわかったならば、その罪を告白し、十字架を仰ぎ、赦しをいただきます。

2月12日(水) 本日は祈祷会の日です。

今日の聖書日課：レビ6：1～30

その人が罪に陥り、後になって責めを覚える場合には、そのかすめた品や脅迫してゆすり取った物、自分に託された預かり物、見つけた落とし物、あるいは、それについて偽った誓った物をすべて返さなければならない。元の物を償い、また、それに五分の一を加えなければならない。彼は自分が責めを覚えるときに、その元の所有者にそれを返さなければならない。

レビ6：5

「代償のささげ物」についての教え。ここでもたしかに、上記の次の節に動物の犠牲が要求されています。しかし、その前に、罪を犯した者がその相手に対して「返す」ことが求められています。ただ返すのではなく「五分の一」を加えて返す。

神の前に罪赦されればそれでいい。のではないのです。罪を犯した相手がいるならば、返すべき者は返す。ごまかさずに向き合うこと。神さまにも人にも、しっかり向き合い、関係が修復されることを願うのです。

2月13日(木) 本日は英会話クラスが行われます。

今日の聖書日課：レビ7：1～21

祭司の家系に属する男子はみな、これを食べることができる。それは聖なる所で食べなければならない。

レビ7：6

「代償のささげ物」についての補足の教え。その中で上記のように語られています。献げられた、焼かたいけにえを食べる？そう、食べるのです。祭司はこれまで語られた儀式を執り行い、その働きのために食事をするのです。そのいけにえを食べるのです。

現代的に言えば、牧師がその働きのために謝儀をいただくことに通じます。ささげ物を通して、神が働き人を養われるのです。

2月14日(金)

今日の聖書日課：レビ7：22～38

いかなる血でも、これを食べる者はみな、自分の民から断ち切られる。

レビ7：27

いけにえの動物を祭司が食べる、ということ昨日は学びました。しかしその時に注意すべきことがありました。血を食べてはならないのです。血の付いたままで食べてはいけません。血はいのちを表し、その血(いのち)は罪の赦しのために神にお返しするべきものだからです。血は慎重に取り扱うよう、教えられています。尊い血を流してくださったイエス・キリスト。その血の意味を深く思い巡らしましょう。

2月15日(土)

今日の聖書日課：8：1～13

モーセは主が命じられたとおりにした。会衆は会見の天幕の入り口に集まった。

レビ8：4

8～9章は祭司の任職の儀式が語られています。そのとき主はモーセに言われました。「全会衆を会見の天幕の入り口に集めよ。」(3)。この儀式は祭司の任職のためですが、それを長い時間、注視した会衆がいたのです。会衆は、自分たちの代表としてこれから儀式を行い、礼拝を導く祭司の姿に注目したのです。

私たちも牧師やリーダーの人たちに注目し、彼らが主の民のためになすべきわざのために祈り、そこに神のみわざが現わされることを期待して信仰生活を送りましょう。

2月16日(日)

本日の礼拝説教箇所：レビ9：22～24 「生ける神」